サツマイモ基腐病のリスクを軽減

サツマイモ基腐病の対策を行いましょう。

基腐病やつる割病などが発生したほ場の種イモは、病原菌を保菌しているので種イモには使えません。

詳しくは問い合わせください。

【防除対策】

①病原菌の伝染源となる残さは、ほ場から持ち出す
　除去が困難な場合は、耕して残さの分解を促進する
②病害のひどかった畑は1年休ませる
③ほ場の排水対策を確実に行う（枕畝を撤去する）
④異常症状の出たほ場からは種イモを採取しない
⑤購入苗、ウイルスフリー苗を挿苗する場合も苗消毒を行う

問い合わせ先
役場農政課農政係
☎(86)1136［直通］

【サツマイモ基腐病】

塊根の腐敗は、なり口側が多く、ドロドロに軟化しない

【つる割病＋細菌性腐敗】

塊根の腐敗はドロドロに軟化する

【リスクの軽減方法】

サツマイモ基腐病をほ場に持ち込まないためには、健全苗を確保することが基本です。

苗床に基腐病が発生した場合、症状のある株は種イモごと速やかにハウス外へ持ち出し、適切に処分しましょう。

採苗する際は、株の地際から5㌢以上切り上げて採取し、ベンレート水和剤などを用いて苗全体を30分間浸漬して苗消毒を行ってください。消毒液は、使用日ごとに新たに作成してください。

また、採苗時のハサミはこまめに火炎滅菌または丁寧な水洗とふき取りを行いましょう。

イメージ図

栽培禁止のケシ

園芸用のケシの仲間、ポピーなどは、美しい花を咲かせるものが多く、ガーデニングの植物として人気があります。

しかし、ケシの仲間には、法律で栽培が禁止されているもの（不正ケシ）があります。これらは、外観の特徴から園芸用のケシと区別できます。植えてはいけないケシの特徴を知り、これに似た植物を見かけたときはそのまま抜かずに出水保健所へ連絡してください。

問い合わせ先
出水保健所衛生係
☎0996(62)1636

○不正ケシの特徴

・花びら4枚は、薄紫色（先端は白に近い）
・開花期の草丈は50～100㌢
・葉や茎の表面にはほとんど毛が無く、つぼみのがく片や下の茎に多少見られる
・葉は互い違いに茎につき、葉の付け根で茎を巻き込むような形でついている
・つぼみは、下を向いていて開花時に上を向き、花が散っても上を向いたまま
・繁殖力が強く、果実（ケシ坊主）には微細な種子が詰まっている